

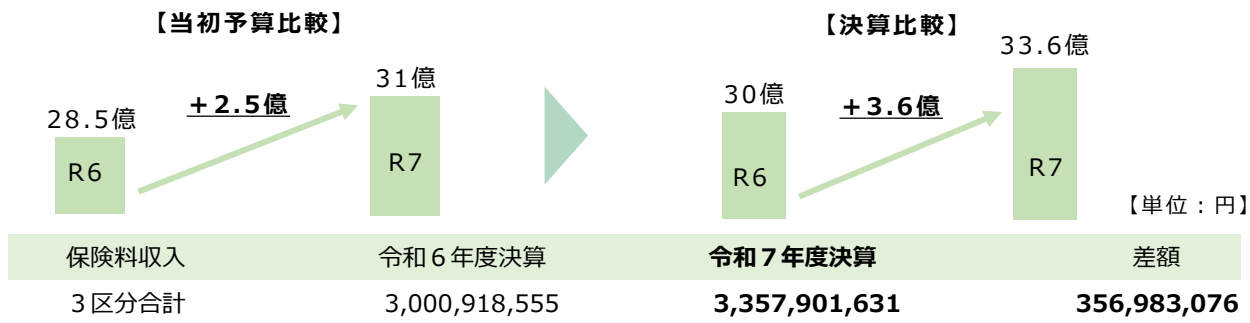
1. 保険料率改定の内容

- 保険料3区分のうち、令和7年4月1日から後期高齢者支援金分の所得割及び被保険者均等割を改定しました。
- 改定内容は、所得割2.20%を1.03ポイント引き上げ、3.23%とし、被保険者均等割5,500円を7,200円引き上げ、12,700円としました。

【改定前：3区分別保険料率】				【改定後：後期高齢者支援金分保険料率】	
区分	所得割	均等割	平等割	所得割	均等割
医療分	7.3%	19,200円	15,600円		
後期分	2.2%	5,500円	—	3.23%	12,700円
介護分	1.6%	12,600円	—		
				+1.03ポイント	+7,200円

4. 現年分保険料収入

- 当初予算では保険料率改定により約2.5億円の増収（3区分合計）を見込んでいました。
- 最終的な決算においては、被保険者の所得増に伴って1人当たり保険料が想定を上回り、結果として前年度比で約3.6億円の増収となりました。



2. 保険料率改定後の所得段階別保険料

- 令和7年度の保険料改定後の所得段階別保険料（1人世帯・3区分合計）は以下のとおりです。

所得（円）	軽減	改定前保険料（円）	改定後保険料（円）	増加額（円）		増加率（%）
				年間	月額	
43万	7割	15,700	17,900	2,200	183	14.01%
73.5万	5割	60,100	66,900	6,800	566	11.31%
99万	2割	104,400	115,900	11,500	958	11.01%
300万	—	338,100	371,800	33,700	2,808	9.96%
600万	—	671,100	735,700	64,600	5,383	9.62%
800万	—	893,100	978,300	85,200	7,100	9.53%

※ 所得は基礎控除前の総所得金額です。

5. 保険料収納率

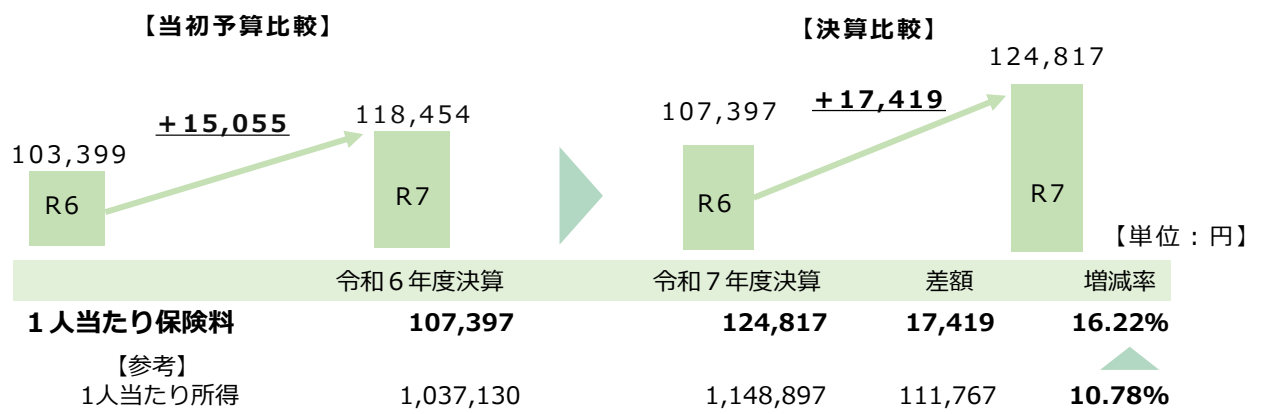
- 合計収納率は、過年分収納率が伸びた結果、前年度比0.82ポイント増となりました。
- これにより、引き続き県内37市中で第1位の収納率（速報値）を維持しています。
- 一方で、現年分収納率は微減となっています。これは全国的な傾向と同様に、口座振替が多く、特別徴収（年金天引き）の対象でもある「前期高齢者（65～74歳）」の層が、後期高齢者医療制度へ移行し減少しているという構造的な変化が、当市においても現れており、微減となった一つの要因であると考えています。

保険料収納率	令和6年度	令和7年度	増減ポイント
現年分	95.79%（6位）	95.35%（5位）	△0.44
過年分	50.06%（1位）	52.55%（1位）	2.49
合計	91.69%（1位）	92.51%（1位）	0.82

※（ ）は37市中の順位。令和7年度の順位は速報値（徴収率）のため、今後変わる可能性がある。

3. 1人当たり平均保険料（年間）

- 保険料率改定による当初予算の増加見込みは約1.5万円でした。
- しかし、決算時点では前年度比約1.7万円の増額となっています。これは、ベースとなる1人当たり所得が前年度比で上昇（10.78%増）したことが主な要因です。



6. 赤字額

- 令和7年度の赤字額は、前年度から約6.3億円の減少となり、大幅な圧縮となりました。
- これは、保険料率改定等に伴う保険料収入や国・県補助金の増加といった歳入面に加え、歳出面では事業費納付金の減少が複合的に影響した結果です。

